ⅱ）中城村総合計画策定審議会の運営支援

【第１回総合計画策定審議会】

■日時：2021 年 3 月 24 日（月）14：00～16：00
■場所：中城村役場多目的会議室
■出欠：
・出席：神谷委員長、比嘉（春）委員、呉屋委員、比嘉（守）委員、名幸委員、山城（司）委員
徳村委員、平安委員、山城（敏）委員、儀間委員、張世委員、伊東委員、伊佐委員
與那嶺委員
・欠席：なし
・事務局：企画課、ST

■次第：
１．挨拶
２．委嘱状の交付
３．委員長・副委員長の選出
４．審議
①計画の目的と課題【資料１：中城村の抱える課題/資料２：統計データ】
②計画策定のスケジュール【資料３：策定スケジュール】
③アンケート結果の報告
【資料４：アンケートの結果、資料 4-1：60 歳以上用アンケート案】
④職員ワークショップの報告【資料５：職員ワークショップニュース】
⑤各課ヒアリング・関係団体ヒアリングの報告【資料６：ヒアリング結果の報告】
５．次回審議会の開催について
６．閉会の挨拶

■議事録：

伊佐　：　資料１p.4（5）人口予測に基づく新たな住宅地フレームの対応について
※敬称略。以降同様。
村民として、新垣での説明会に参加し話を聞いたが、進捗などあれば具体的に教えてほしい。

事務局　：　那覇広域の中でも、審議会や幹事会などを行っているが、進んでいない。住宅拡充などを考えているが、村長としては足りないということで、意向に向けて活動している状況である。まだ具体的には見えていない。

伊佐　：　農地の転用など、今後の目安を教えてほしい。

事務局　：　市街化区域と市街化調整区域は県が策定しているので、簡単には外れない。中部広域の移行が出来なかった場合に想定されることは、緩和区域という策（家が建っている周りには住宅建築が可能）である。しかし沖縄県は緩和区域が厳しい（二世帯住宅やアパートの建設はダメだったりする）。緩和区域だけでは足りないという話になると、南上原のような区画整理が起こるであろうが、何年後になるかは不明である。

神谷委員長　：　都市計画審議会の区域区分ワーキングの中では継続審議になっている。長期的には、全体を検討する必要があると考えている。
うるま市以南くらいで北九州市くらい、沖縄県の市町村は東京都や大阪市と同じくらい小さい規模である。都市圏として考えたときに、１つの都市圏くらいの大きさである。自治体は別々でいいが、都市圏として方向性を考える上では、全体を考えた方がいいという議論がある。
短期的には、市街化調整区域であっても先に住宅地が出来るような無計画な推進はやめる。現状、幅員 20m以上の幹線道路などは、地区計画で設置できたが、来年度改訂の際には幅員 12m程度の道路でも設置できるようになる。
→計画的に地区計画を作りましょう、ということがよいのではないかと考えている。
市街化調整区域の中でも、宿泊施設や商業施設などの開発を行い、総合計画などに載せたり準備をしたりして認めていく。
計画書などに記載がない状態で「ここを開発したい」と言っても認められない方向にする。
地区計画の内容をどう緩和していくか、という議論が昨日行われた。

山城（司）　：　２点質問したい。①p.4 高齢化率推移で添石が高い理由は何か。②アンケートで交通の便が悪いという意見が多い理由は何か？

事務局　：　①添石の件は、特別養護老人ホームの対象者が住所を持っているため突発的に高齢化率が高くなっていると想定される。
②アンケートの件は、村内でバスが極端に少ない。バスが通っていないと言っても過言ではない。コミュニティバス（護佐丸バス）があるのみである。学校への距離があるので、交通の便が悪いと感じる。長年の課題である。
村内に高校もないので、移動手段がない状態である。

神谷委員長　：　アンケートの高齢者とは 65 歳以上か。

事務局　：　65 歳以上としている。

神谷委員長　：　護佐丸バス、通院を考慮したアンケート項目を加えてほしい。

張世　：　職員ワークショップで、商業施設・観光施設を作った方がいいという意見があるが、個人的には大規模のホテル建設がされても、他市町村に対抗できないと考えている。自然を生かした観光振興が良いと考えている。職員が中城村の未来につながるような正しい知識を持っているのか疑問に思った。

神谷委員長　：　宿泊施設は民泊が考えられる。岩手県で第三セクター（宿泊兼研修施設兼勉強場所、交通の結節点など複合施設の形）の例がある（オガール）。宿泊施設で多機能を有したものも考えられる。

平安　：　資料１p.4（5）について
３つの地区に分かれているが、このフレームは実際に決まっていることか。

事務局　：　内容自体は第４次総合計画で決まっていることである。
南上原の区画整理事業が完了を迎えるので、新たな拠点として登又・北上原を考えている。南浜・和宇慶地区に西原バイパスが通る計画があるので開発ができる可能性がある。国道 329・330 号の横断道路が計画されているので、それを活用した住宅整備をしないといけない状況である。
サブ拠点として住居か商業系かは今後議論していく予定である。

名幸　：　資料２の作業別人口について
グラフで農業人口が半分近く減っている印象をもった。国道 329 号などは農地が多い印象である。農地の活用状況や有休農地が多いなどの状況を教えてほしい。

事務局　：　耕作放棄地が５年間で６ヘクタール程度増加している。土地利用の対応などは今後の課題である。

：　村長の思いとして、移行した後に農振を除外したいと考えている。耕作放棄地など、新たな新規就農は未定である。

：　農業振興ビジョンが今後策定され、その結果を総合計画に反映したいと考えている。

神谷委員長　：　収入人口グラフについて、「村民」か「村で働いている人」なのか、どちらなのかを確認してほしい。

山城（敏）　：　グラフについて、データ分けを南上原とそれ以外で分けたほうが整理しやすいのではないかと考える。市街化区域と市街化調整区域でも結果が違うだろうと考える。「数」か「率」か、分かりにくいと感じた。
p.8 のグラフは、100％の割合、全体の率として整理するとどうかと考える。割合の変化が見えるといいのではないか。p.13 のグラフも同様である。
アンケートについて、回答者としては項目が長いと感じる。設問者の意図とは別の捉え方で答えていたりしないか。
→個別の意図が入らない設問にするといいのではないか。例えば、放課後児童クラブが欲しいに対する回答は、本人が必要と感じるのか、地域住民としてあったら便利だろうなと感じるのか。より率直な意見が入るようにしたほうがいいと考える。

神谷委員長　：　地区別懇談会などで具体の設問をするといいのではないのか。

事務局　：　行政懇談会自体は終了しているが、自治会長を通して確認してもうことは可能だと思うので検討していく。

伊東　：　３年前に家族（双子０歳児）と引っ越してきた。育児・生活を考え、南上原が第１候補だった（機能が充実し明るい印象）。しかし、家を建てるには土地が高いので、当間に引っ越した。南上原は土地が沢山あり、人口も増加しているが、それが逆に問題のように感じる。当間では特に大きな変化、新しい住民を求めていない傾向があるように感じる。古い集落が多いので、「どこから来た？」「いつまでいるのか？」と転入当初は警戒していように感じた。都市開発や人口増加を長く住んでいる人が求めているのか疑問である。育児をしていて感じるのは、病院（特に耳鼻科）が村内に少ないことである。耳鼻科は宜野湾市や西原町まで行かないといけない。特に昔からの村民が本当に求めているものに耳を傾けてほしい。

事務局　：　中城村は自然環境が良い、良い地域という意見が多い。今回のアンケート結果でも出てくると思う。しかし、自分の子どもが家を建てる際に建てにくいこともあり、移住者が一気に増えてほしくないと思っている村民が多いのかもしれない。
小学校や中学校の生徒数が減っているので、維持することも考えると、下地区にも住宅が増えたらと思っている。

伊東　：　引っ越しの際に考えたことは、海抜である。東日本大震災があり、沖縄も津波は発生

する可能性がある。上の地域を考えたのは、海抜が高いことがひとつの理由である。下の地域は、海から近く平らな印象があるので、大きな分譲住宅を建てる時も気にする人はいると思う。住宅以外の活用方法があるのではないか。

事務局　：　農業振興の部分で土地改良として整備してきているが、担い手などの部分については課題が多い。

神谷委員長　：　南上原に人口が増えるのがいいのか悪いのか。その議論がいいのか。
簡単に家が建つと空き家が多くなる。本村は空き家が少ないメリットがある。現状、家を建てることが難しい分、長期的にみると空き家が少ない。例えば、うるま市では、与勝半島の人口に対する道路・水道の維持管理が課題である。
水道は公営企業の収入で賄うので、長さに対した人口のバランスが重要にある。今行う建設・開発行為が将来世代に対して負担になる可能性があるので、今後の人口減少を見るといいことではない側面もある。
地区計画の中で対応していくことが必要だと考える。２世帯住宅の建設については、高さ制限が緩和されるので今後対応できると思われる。３世代で住むことに対しての支援をすると良いと考える。
子育ての課題もある。病児保育がないことに対して、例えば多世代との交流を行うことにより、地域で子どもを見守るポテンシャルが必要である、それを支援する行政の公的サポートが必要ではないかと考える（ソーシャルキャピタルなど）。
グラフについて、各地区に対しての高齢者の割合ではなく、どういう住まいなのか。独居なのかなどの具体を示すと良いと考える。
65 歳以上を高齢者としているが、75 歳以上の後期高齢者の視点も入れた方がいいと考える（定年や年金の見直しという話の時は特に）。
「中城村として、どのような方向性がいいのか」
耕作放棄地は使用したい人に貸し出す制度を公的に作成するなど対応し、将来的には法人化するのもいいと考える（個人対個人だと揉め事が起きやすいので、個人→役所→個人の仕組みを作る）。
今は難しいという話ではなく、こんなやり方がある、手段は別として方向性があれば意見を出す必要があると考える。

平安　：　本村のイメージは、田舎の農村のイメージである。色んな計画が考えられているので、子育てしやすく、教育に力を入れる村づくりをしてほしい。転入・転出の人口や村の収入の問題などを考えると、働き盛りの世代が子育てしやすいようにした方がいいと考える。南上原の保護者は、琉球大学があり附属小学校を目指すが、落ちると新しい南小学校への入学を検討される人が多い。実際に自分の園でもそういう考えを持って南上原に住んでいる人がいる。生誕～中学までの期間を考え、住宅ローンを組み、家を建て 20 年 30 年安定して住み続けてほしいので、教育をベースに住みやすい環境を考え作ってほしい。また、スーパーや病院など生活に必要な部分に対しての考えが広がっていくと住みやすい村のイメージができると思う。

徳村　：　今回の審議会の趣旨は何か？そこが見えないので発言がしにくい。課題認識の基本的な方法が今日の趣旨なのではないかと考える。資料１だと、中城村の戦略を明確にしないといけない。アンケートなど村民からの情報の結果が出してあるので、こういう方法もあると進めていく必要があると考える。スケジュールを確認すると、４月の会議に向けての意見収集ではないのか。村としての色んな柱（教育や福祉等）や方向性を示すべきでは？

事務局　：　課題の抽出や状況の把握がメインだと考えている。

：　資料３のスケジュールは時系列に並んでいるだけである。
審議会の役割は、今までの経験を踏まえて計画に対しての意見をいただくことである。

１回目に関しては、中城村の現状に不安・問題意識を持っているのかを挙げて欲しいのが趣旨であった。課題としてのまとめを行い、2020 年度の各課ヒアリングの中で、第４次総合計画の内容検証を行う。課題認識が見えてきたので、このままでいいのか、新しい施策が必要ではないのかと踏み込んだ議論が行われる。これが、基本的な方向性の確認と記している部分になる。
各会議間の位置づけなど次回の審議会時に提示したいと考えている。職員ワークショップや各地区の住民に対面式で意見をもらう場を検討しているので、2020 年度にどうまとめていくかも提示する予定である。
第２回目の審議会は明確な課題の提示。第４次総合計画で足りていない体験的な資料の提示を予定している。３回目の審議会で方向性を提示したいと考えている。

出席者　：　素案に対して意見をくださいというよりは、一緒につくっていきましょうという印象を受ける。普通は、「〇〇で勝負する」という戦略で、確定した物に対しての意見を求める。しかし、まだ案を持っていない。人口も増えたらいいということでもない。人数設定を設定すべきなのかどうか。するなら一緒に議論しようという資料の作り方である。目標自体の意見をくださいという状態だと考える。

伊佐　：　介護保険受給者の数など、高齢者福祉・障がい者福祉に関するところのデータがほしい。障がい者手帳の発行数と受給者の数は違うと思う。こども園についても認定の種別が違う（３歳以下とか、短時間とか)。具体的なデータがあると村の資源が見えてくると思う。障がいの部分は、少数なので住民会議などでデータを見てもらうことで障がい者福祉分野の啓発にもなる。したがって、データの中に福祉や子育ての具体的なデータがあるといいと考える。

比嘉（守）　：　農業について、中部広域が市街化調整区域ということになるのか？

事務局　：　市街化調整区域という線引きはなくなる。農振地域は残る形になる。農振という法的な部分は残り、開発に関する部分だけが、市街化調整区域や市街化区域という網がなくなる。村民の意見を聞きながら整備を計画していく方向なので、すぐに開発とはならないと思う。

比嘉（守）　：　中部広域、農振地域の部分を心配していた。農業人口も高齢化してきたが、島ニンジンや島大根などの農作物も村の産業としてある。

事務局　：　農業ビジョンの中でも基幹作物はどういった物にしようかといった話がある。島ニンジンなど数量の多いものを中心にと計画しているので、一概に農業を辞めるということはない。

呉屋　：　商工業について、南上原地区等の人口が増えているので、生活する上でスーパーや小売店などが必要だと考える。費用誘致の観点から建てられる場所が必要だと思う。南上原は空き店舗がほとんどない。国道 329 号より下の地区は住宅を増やす上でも商工業が必要だと思う。大きいものでなくて、小さいものでも生活のパターンに組み込んでいけると良いと考える。

神谷委員長　：　税金を費やしたが耕作放棄地になるという場所が沖縄は多い。水利系の整備だけ進み、土地改良をしたが保存整備が遅れるという状態で財務省からお咎めがあった。中部広域に入る話と農業振興を外すという話はリンクしない。農振を外す方が沖縄は厳しいと考える。

比嘉（春）　：　子育て、福祉について、子育て支援センター、病児保育が少ないと感じる。まだまだ子育てしにくい現状にあると考える。「環境はいいが、不便」という意見が多い。外から来た人が安心して住めるようにしてほしいと考える。南上原地区の土地・マンションは那覇市と同じくらい高い。若い世代がずっと住むにはどうすべきか。大学生は村で働いてくれない。働く場所がないのか。長く住んでもらうことが重要でないか。できることを考えると、子育て・福祉の面で協力することだと思う。

神谷委員長　：　子育てはみんなのスローガンであると考える。３世代で住んでいたら親に地域の事など聞けるが、サポートについては市町村によって違うので知らない事も多い。
中城村で働く人がいないという部分は、企業誘致や起業を総合計画に入れるか、入れないかも考える必要がある。今は場所を問わない働き方がある。

儀間　：　うるま市に住んで本村に働きに出ている。「他市町村との差別化とは？」ないものを新たに作る？or 今あるいいものを守る？

委員　：　価値をどう見つけて、どのように活かしていくか。数字にはならないので難しい部分である。

與那嶺　：　本村に来て６年になる。子育て世代との会話で中学校や高校はどうするかが問題になっている。村立高校などができるのか。具体的に小中学校にどういうプログラムを取り組んでいくか。中城村の方向性が次回以降に聞けたら良いと考える。福祉の面で、介護保険料が沖縄県の中でも高い方なので、税収をどう考えているのか気になるところである。

神谷委員長　：　地元の総生産や人口高齢化率で評価できるが、人材・教育の話は重要だがどう評価するのか。どういう方向にもっていくのか。セーフティーネットや少人数教育など。不登校の子が少ないイメージ。何がどうなった時に評価するのか、村でとなると難しい話である。

張世　：　これからの教育・人材がないと村の未来がないと考える。村に高校がないので下地区で近い高校になると中部商業や普天間高校などである。バス移動では経済的な負担が大きい。中城村にないものを作った方がいいと思う。普天間高校は移転しようという話があるようなので、村内に誘致できるか検討してほしい。１つの環境で、人材育成につながるので考えてほしい。
観光の面、民泊の課題を取り上げてほしい。大きなホテルは税金や外資系が多いが、民泊は自然、農業、漁業、文化など村の体験ができるのではないか。

神谷委員長　：　次回の議論の際は、資料を先に渡し、事前に目を通してもらえるようにした方がいいと思う。

事務局　：　不足分は次回提示できるよう整理していく。今後の日程だが、2020 年度に２・３回を想定している。日程については、開催時期が近くなったら連絡する。

－以上－